

岡部 泰賢

京都大学ウイルス・再生医科学研究所
特定准教授

Heterogeneous な組織境界層を起点とした時空間的な細胞間相互作用

§ 1. 研究成果の概要

腹腔・胸腔などの体腔内に収納される臓器(肝臓・胃・腸管・肺など)の表面は、中皮細胞から成る単層の薄い膜に覆われることで体腔と臓器の間が隔てられている。一方、体腔には細胞や物質が満たされており、これらは体腔内臓器との間を行き来することで体腔-臓器間のコミュニケーションが形成される。

本研究では、中皮層の特異的な場所に存在する新たな中皮細胞種に着目し、この細胞が形成する中皮層のゲートを介した体腔-臓器間コミュニケーションについて解析を行う(図)。2019年度は本中皮細胞を標的とした遺伝子改変マウスを作製し、本中皮細胞の生体内における役割の解析を行った。

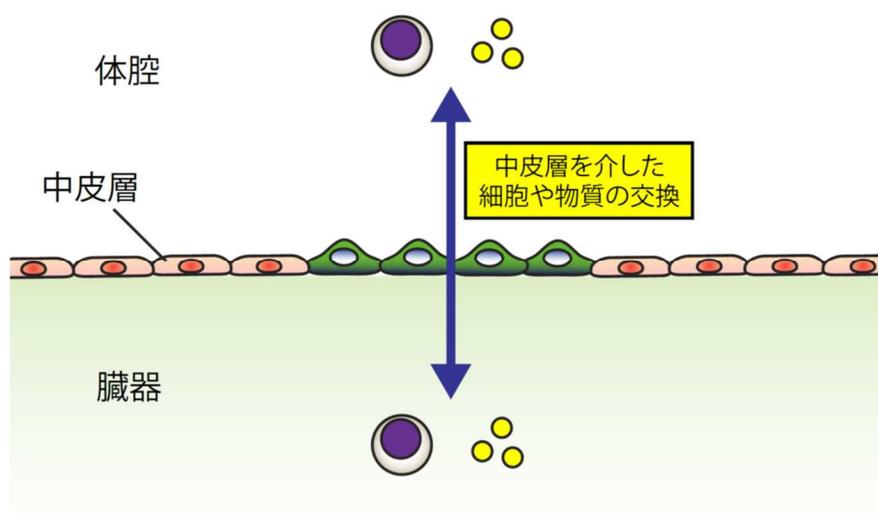


図:本研究の目的
体腔と体腔内臓器の間には細胞や物質の交換を介したコミュニケーションが存在する。本研究では中皮層の特異的な場所に存在する新規中皮細胞種について解析を行う。